

NEWS LETTER

Vol.10
2022.6月

トピックス

就業等に参加している人は、生きがいを「十分感じている」割合が高い

令和4年6月14日、「令和4年版高齢社会白書」が閣議決定され、内閣府から公表されました。

高齢社会白書とは

高齢社会対策基本法に基づき、平成8年から毎年政府が国会に提出している年次報告書であり、高齢化の状況や政府が講じた高齢社会対策の実施の状況、また、高齢化の状況を考慮して講じようとする施策について明らかにしています。

高齢化の状況について

白書では、令和3年10月1日現在の年齢区分別人口やその構成比など、高齢化の現状を掲載（右表）しており、NEWSLETTER Vol.9でも取り上げたところですが、**総人口に占める65歳以上人口の割合である高齢化率 28.9%と過去最高（前年より0.3ポイント上昇）となりました。**

今後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24年にピークを迎え、その後は減少に転じると推計されています。

総人口が減少する中で65歳以上の者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、令和18年に33.3%となり、国民の3人に1人が65歳以上の者になると推計されています。

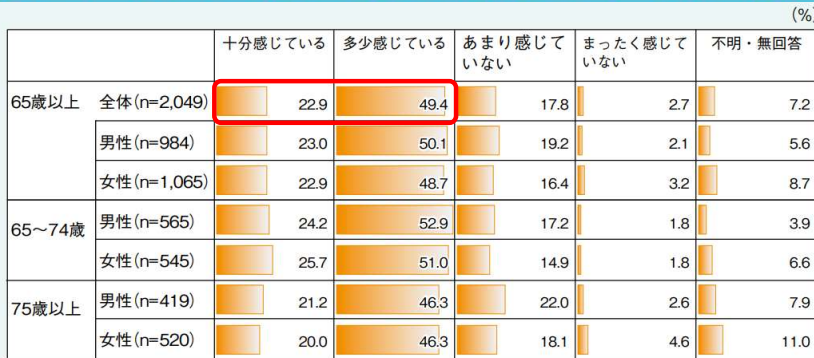
高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

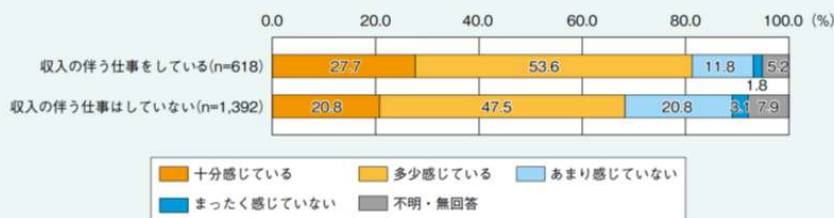
		令和3年10月1日		
		総数	男	女
人口	総人口	12,550	6,102	6,448
			(性比) 94.6	
	65歳以上人口	3,621	1,572	2,049
			(性比) 76.7	
	65～74歳人口	1,754	839	915
		(性比) 91.7		
75歳以上人口	1,867	733	1,134	
		(性比) 64.7		
15～64歳人口	7,450	3,772	3,678	
		(性比) 102.6		
15歳未満人口	1,478	757	721	
		(性比) 105.0		
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口（高齢化率）	28.9	25.8	31.8
	65～74歳人口	14.0	13.8	14.2
	75歳以上人口	14.9	12.0	17.6
	15～64歳人口	59.4	61.8	57.0
15歳未満人口	11.8	12.4	11.2	

資料：総務省「人口推計」令和3年10月1日（令和2年国勢調査を基準とする推計値）
 (注1)「性比」は、女性人口100人に対する男性人口
 (注2)四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

生きがい（喜びや楽しみ）を感じる程度について（年齢・性別）



生きがいを感じる程度について（収入の伴う仕事の有無別）



生きがいを感じる程度について（社会活動への参加の有無別）



※ 四捨五入の関係で回答した人の割合の合計が100.0%とならない場合がある。

出典：「高齢社会白書」（内閣府）

生きがいを感じる程度について

また、白書では<特集>として、内閣府が令和3年12月に調査した「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査」の結果の一部を紹介しています。

調査結果の分析に当たっては、高齢者の生きがい（喜びや楽しみ）に着目して分析を行っていますが、左表のとおり、生きがい（喜びや楽しみ）を「十分感じている」「多少感じている」を合わせると、72.3%の高齢者が生きがいを感じていることとなります。

就業等により感じる生きがい

生きがいを感じる程度を就業や社会活動への参加の有無別に見ると、左グラフのとおり、収入の伴う仕事をしたり、社会活動に参加したりしている人は、生きがいを「十分感じている」と回答した人の割合が高くなっています。

また、他の質問では、「社会活動への参加により、生活に充実感を感じたり、新しい友人を得たりするきっかけともなっている。」「健康状態が良い人ほど生きがいを十分感じていると回答した人の割合が高くなっている」との結果となっており、「まとめ」では、「高齢者が、様々な就業や社会活動への参加の機会が得られるよう、環境整備を図るとともに、その基礎となる健康づくりを、高齢期、更には生涯にわたって推進していくことが重要である」としています。